

DATEVALUE関数 使い方 & #VALUE!エラー対処 完全攻略チェックシート

1. DATEVALUE関数の基本

目的: 文字列で入力された日付を、Excelが計算や並べ替えに使える「日付データ(シリアル値)」に変換します。

基本の形（構文）：
=DATEVALUE(日付文字列)

引数「日付文字列」のポイント:

- Excelが「日付だ!」と認識できる形式の文字列を指定します。
- 例: "2024/5/29" や "2024年5月29日"
- 注意: 文字列を直接入力する場合は、必ずダブルクォーテーション (") で囲んでください。セル参照(例: A1)の場合は不要です。**

2. よくある日付文字列の変換ポイント

パターン1: 「YYYY/MM/DD」や「YYYY-MM-DD」形式

- DATEVALUE関数で直接変換できます。
- 例: =DATEVALUE("2024/05/29")

パターン2: 「YYYYMMDD」形式 (例: "20240529")

- そのままではエラーが出やすい!**
- TEXT関数と組み合わせて日付形式の文字列にしてからDATEVALUE関数へ。
- 例: =DATEVALUE(TEXT(A1, "0000"/"00"/"00")) ※A1セルに「20240529」と入力されている場合

パターン3: 「和暦」文字列 (例: "令和6年5月29日")

- 最近のExcel (Microsoft 365など) では直接変換できることが多いです。
- 例: =DATEVALUE("令和6年5月29日")
- 注意: Excelのバージョンや設定によっては、SUBSTITUTE関数などで西暦に近い形に加工が必要な場合もあります。**

共通のコツ: 全角の数字や記号は半角にしましょう。また、余計なスペースはエラーの原因になるので注意してください。

3. #VALUE!エラー 主な原因と対処法

よくある原因	確認ポイントと解決策のヒント
1. Excelが日付と認識できない文字列	・「.」(ドット)「,」(読点)区切り → SUBSTITUTE関数で「/」などに置換します。 例: =DATEVALUE(SUBSTITUTE(A1, ".", "/", "")) ・"20240529" (区切りなし8桁) → 上記「2. よくある日付文字列の変換ポイント パターン2」を参照
2. あり得ない日付 (例: "2024/02/30")	・元データの日付が正しいか確認し、修正します。 ・IFERROR関数を使って、エラーの場合に特定のメッセージを表示させることもできます。 例: =IFERROR(DATEVALUE(A1), "日付エラー")
3. 不要なスペースや見えない文字の混入	・TRIM関数で文字列の前後の余分なスペースを削除 ・CLEAN関数で印刷できない文字を除去 ・両方を組み合わせて使用: =DATEVALUE(TRIM(CLEAN(A1)))
4. パソコンの地域設定との不一致	・パソコンの「日付と時刻」設定を確認 ・可能であれば、一般的な日付形式("YYYY/MM/DD")に合わせる
5. 引数が「文字列」ではない	・DATEVALUE関数には「日付に見える文字列」が必要 ・セルが既にシリアル値や他のデータ型になっていないか確認

4. シリアル値と書式設定の超基本

シリアル値とは？

- Excelが日付や時刻を内部で管理するための「連続した番号」のことです。
- (例: 1900年1月1日を「1」として、1日経過するごとに1ずつ増えます)
- DATEVALUE関数は、日付文字列をこの「シリアル値」に変換して返します。

シリアル値を見やすい日付表示にするには？

- シリアル値が表示されているセル(DATEVALUE関数を入力したセル)を選択します。
- キーボードの Ctrl キーを押しながら 1 (数字のイチ) を押して、「セルの書式設定」ダイアログボックスを開きます。
- 「表示形式」タブの「分類」リストから「日付」を選びます。
- 右側の「種類」リストから、表示したい日付の形式を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

おわりに

この「DATEVALUE関数 使い方 & #VALUE!エラー対処 完全攻略チェックシート」が、あなたのExcelでの日付データ処理のお悩みを解決し、作業効率アップの一助となれば幸いです。

DATEVALUE関数や日付の扱いは、最初は少し戸惑うかもしれませんが、このシートを活用して一つずつ確認・実践していけば、必ずスムーズに使いこなせるようになります。

焦らず、諦めずにトライしてみてください。応援しています!